

実用化事例

技術相談 業務用食器の釉薬開発による製品化支援

【相手先企業】 大洗里海邸, 仲田製陶, 折笠陶房



図1 提案したサンプル



図2 相手先とのマッチング打合せ

表2 技術仕様

使用粘土：笠間単味土
焼成条件：酸化焼成
1230～1250℃
釉薬：糠白釉，青釉，柿釉



図3 開発製品の盛り付け例

【開発の背景】

笠間焼は企業規模が1.6人程度の、作家中心で構成される産地です。

今回の業務用食器に関する相談は、食器の色合いが重要でした。個人作家で発色試験から制作まで行った場合に、納品が困難なケースでもあり、相談の要望から、当所が釉薬開発を中心に支援しました。

【開発の経緯・支援内容】

旅館のリニューアルに際しては、「県産素材にこだわる」がコンセプトであり、食器に対しても「笠間焼らしさ」への要望がありました。

1) 伝統的釉薬の提案

笠間焼の「伝統的工芸品の指定の申出書」に基づく釉薬(柿釉・並白釉・黒釉・青地釉・飴釉・糠白釉・ナマコ釉・イラボ釉)を提案しました。

(表1)

	糠白釉	青釉	柿釉
成分	長石 天然わら灰 合成土灰	長石 天然わら灰 合成土灰 酸化銅	長石 珪石，蛙目粘土 ドロマイト，鼠石灰 酸化鉄

2) 技術仕様の作成

相手先との打合せにより、使用粘土，焼成条件，釉薬調合，施釉の厚さについてサンプル提示しました。(図1，表1～2)

3) 製陶企業とのマッチング

技術仕様に基づき，共同研究「笠間焼ギフト製品の開発」に参加した企業などを斡旋紹介しました。(図2)

【開発した製品の紹介】

大洗里海邸から「イメージどおりの釉薬の色合いとなった」と好評いただき，以下が納品されました。(図3)

仲田製陶

・小鉢(直径11cm，柿釉・青釉) × 200枚

折笠陶房

・取り皿(直径15，18cm 糠白釉) × 80枚

・とんすい(直径10cm，糠白釉) × 30枚

・大鉢(直径28cm，糠白釉) × 20枚

記事掲載：10/27(茨城新聞) 等

基礎となった事業

平成20年度 伝統的笠間焼釉薬の研究，平成21年度 共同研究「笠間焼ギフト製品の開発」，平成22～23年度 技術相談

現在の担当部門

工芸技術部門 部長 佐藤 茂 TEL：0296-72-0316
主 任 久野 亘央